

## 教育委員の意見の『「制服のあり方」について』概要（6月教育委員会定例会から）

1. 日時 令和3年6月25日（金）

2. 協議内容 南足柄市立中学校「制服のあり方」検討委員会の設置について

3. 教育委員の主な意見（制服の必要性、検討方法等について）

○制服はあった方が子どものためにいい。私服にするメリットが必ずあるとは思えない。

- ・私服にすると、おしゃれな服装をする子もいるだろう。一方で、毎日同じ服を着る子、汚れたままの服を着る子もいるだろう。そのような「差」が出始めるのは心配である。
- ・公的な行事の時に着ることができる制服があった方がよいのではないか。
- ・普段の授業も、基本的には制服で受けた方がよいのではないか。

○経済的に支援が必要な家庭が困ってしまうような考え方は避けた方がよい。

○経済的に困窮している家庭では、同じ服を何日も着ていくことになるかもしれない。それがいじめの対象となってしまうことは、あってはならない。

○制服があれば規律という側面の教育が重視されるが、人としての基本的な表現を抑え込むという側面もあるので、制服にしても私服にしても教育面で議論することは難しい。一方で、制服にしても私服にしても、子どもは成長するので、途中で買い替えなくてはいけない。経済面を前面に議論をしていくことが大事である。

○好きな服を選んで着るとするのは、誰もが望むこと。しかし、学校は勉強をするところであり、その場に合った服を選ぶことを学ぶことも大事である。自由は、常識的なルールやマナーを守る範囲での自由であってほしい。

○「制服のあり方」を再検討することになったのはいい機会。制服を着る子どもたちも、なぜ制服が必要なのかという意義を考えるきっかけになってほしい。また、自由な服装になったとしても、子どもたちがその結果を納得して受け入れられるような検討になってほしい。

○スカートやスラックスなどが選べる制服になったとしても、私服となったとしても、選ぶ服装が人それぞれ異なることに変わりはない。人と違って当たり前ということを心から受け入れられるような教育、多様性を認める教育が大切である。